

# 《チャイルドラインデータ資料》 2021年度・第1四半期 【集計データから、子どもたちの状況を読み解く】

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

## 《データ資料概要と注意点》

### 2021年4月～2021年6月のアクセス内容、データベースを集計し分析

チャイルドラインに寄せられた子どもたちの声にどのような傾向があるのか。チャイルドラインにおける“データベース”等を基に、集計しました。

- ・期間：《2021年度・第1四半期》2021年4月～2021年6月（速報値）
- ・データ集計日：2021年8月1日
- ・集計数（分母）：

【トラフィックデータ】（件数・今回使用したデータのみ掲載）

	1月	2月	3月	3ヶ月計	4月	5月	6月	3ヶ月計
2020年					75,945	60,212	43,760	179,917
2021年	42,593	42,879	41,958	127,430	34,640	46,538	39,564	120,742

【データベース】（件数・今回使用したデータのみ掲載）

	1月	2月	3月	3ヶ月計	4月	5月	6月	3ヶ月計
2020年（全体）					8,072	9,142	12,712	29,926
2021年（全体）	10,360	10,612	11,416	32,388	13,016	13,257	12,371	38,644
2020年（会話成立）					2,572	2,945	4,360	9,877
2021年（会話成立）	3,445	3,679	3,927	11,051	4,020	3,778	3,607	11,405

\*（全体）は会話成立、会話不成立、無言などを含んだ全体集計数

- ・表記の定義： 「％」＝上記項目の分母（集計した数）の割合  
「件」＝データベースに入力されたアクセス・会話件数  
「ポイント」＝パーセントポイント（他の％との比較）
- ・データの種類：【トラフィックデータ】電話＝NTTコミュニケーションズ、チャット＝AI.BiSから取得  
【データベース】電話・チャット＝「受け手」が感じた内容を子どもが特定できないようプライバシーに配慮し、データベースとして集積
- ・データの性質：データの誤入力や重複、未入力データがある等、今後、修正が生じる可能性があるため、「速報値」であることを前提として扱う必要がある
- ・報道関係の皆様へ：データ資料について取材、ご利用の際は、チャイルドライン支援センター（連絡先最終ページ）までご一報ください。

## 《今期のポイント》

新学期が始まる期間ということもあり、新しい環境への戸惑いや期待など様々な不安がうかがえます。

COVID-19の影響は子どもの生活全般に関わってきているのではないかと思われ、家庭においては、親も子どももストレス状況にあり、その矛先が子どもに向かっていているように感じられます。

### 【前四半期との比較】

今期（2021年4月～6月）は新学年がスタートし、新たな環境で人間関係を構築していく時期です。そのため、前四半期（2021年1月～3月）より、話の主訴は「学校」の割合が増え、他の項目は減少しています。

（P10）

希死念慮を持つ内容の割合は、減少しています。（P16） 希死念慮を持つに至った環境（主訴）をみると、「学校」に関することが減り、「自分」に関することが増えています。（P18） 前四半期は、もともと抱えているしんどさに進路問題が加わる時期であるため、今期と比べて「学校」の割合が高かったと考えられます。

### 【前年同期との比較】

前年同期（2020年4月～6月）は、COVID-19の流行で社会が大きな不安に襲われた時期でした。初めての緊急事態宣言や休校で、おとなも子どもも、そしてチャイルドラインも大きな影響を受けました。

主訴では「学校」に関すること、関係性では「友人・知人」が増えています。前年同期が休校時期のため、通常より少なかったと考えられます。（P10）

気持ちでは、「不安」が減り、「つらい・苦しい」が増えています。前年同期は、子どもだけでなく、おとなも漠然とした「不安」でいっぱいでしたが、そこからある意味具体的に「つらい・苦しい」状況になってきているのかもしれませんが、そんな中でも、「うれしい・たのしい」ことが見つかった子どももいるのか、少し増えていることがうれしいです。（P13）

希死念慮は少し減っていますが、希死念慮を持つに至った環境（主訴）では、「学校」が増え、自分が減っています。これも前年同期にCOVID-19の流行で休校になったことの影響だと考えられます。（P18）

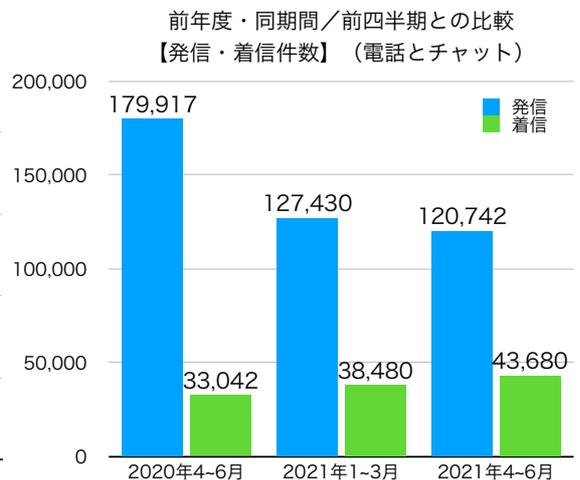
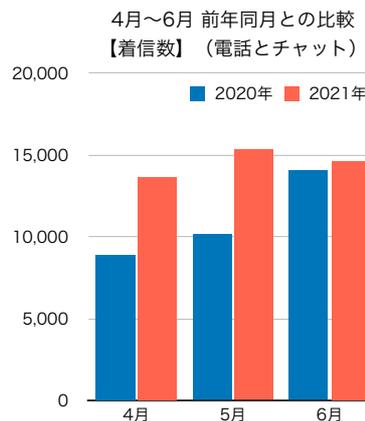
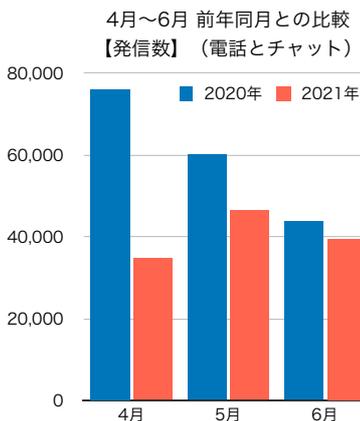
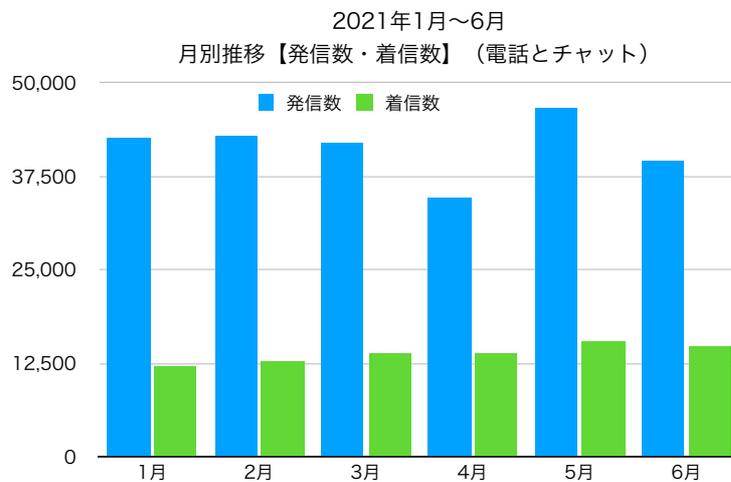
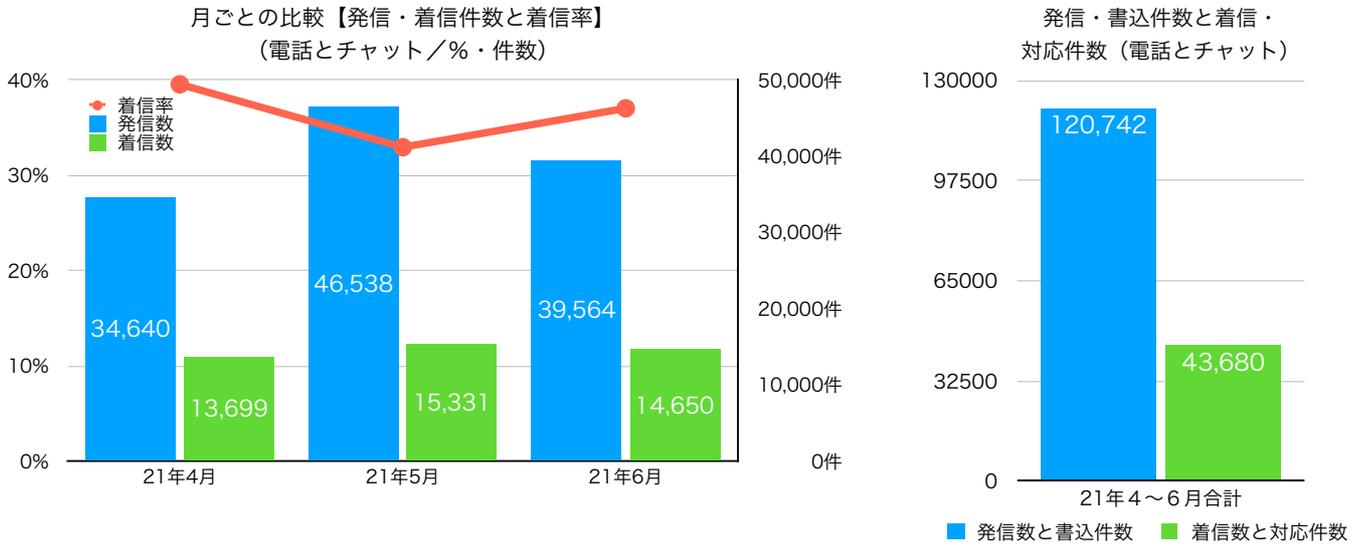
チャイルドラインでは、前年同期の緊急事態宣言でやむなく休止する団体が増えていき、回線数が一時期30%程度まで落ち込みました。このため、着信数が減り、着信できないとかけ直すため益々発信数が増えるという状況になりました。（P3） その後もCOVID-19終息の兆しが見えないまま現在に至りますが、回線数はCOVID-19流行前までとはいかないまでも、概ね回復しています。

### 【子どもの声】

- ・修学旅行がなくならないか心配
- ・オンライン授業は楽しい
- ・仲の良かった子に無視されるようになって、怖くて学校に行くのが不安
- ・学校に行きたくない 自分だけういてる気がする
- ・中学生になって制服のスカートをはくのが苦痛
- ・母とけんかしたら口をきいてくれなくなった。どうやって仲直りしたらいい？
- ・親が離婚。二人暮らしになった母から虐待されている
- ・姉が何かあるとたたく。父母に話しても直らない
- ・経済的な事情で塾に行かせてもらえない
- ・受験で志望校に落ちたら親からの暴言が始まった
- ・テレビでコロナのことは怖い
- ・ワクチン打ったらうつらないの？
- ・ずっと友だちと遊べなくていらいらする

## 《トラヒックデータ／発信数・着信数》

トラヒックデータの発信数・着信数は、この3ヶ月では、2021年の5月に発信数が多かった。昨年の同月との比較においては、2020年の緊急事態宣言における体制縮小による影響により、大きく変動しているが、2021年期はCOVID-19流行前までとはいかないまでも、概ね回復している。着信に関しては、最新の3ヶ月は、他の時期と比べて増加傾向となった。

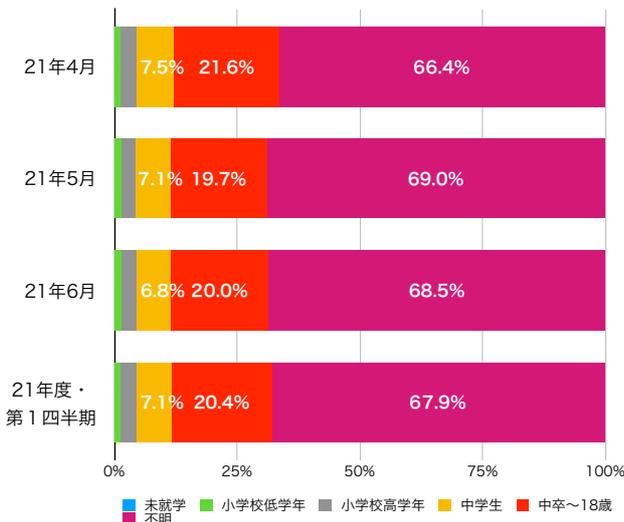


# 《データベース・年齢（全体）》

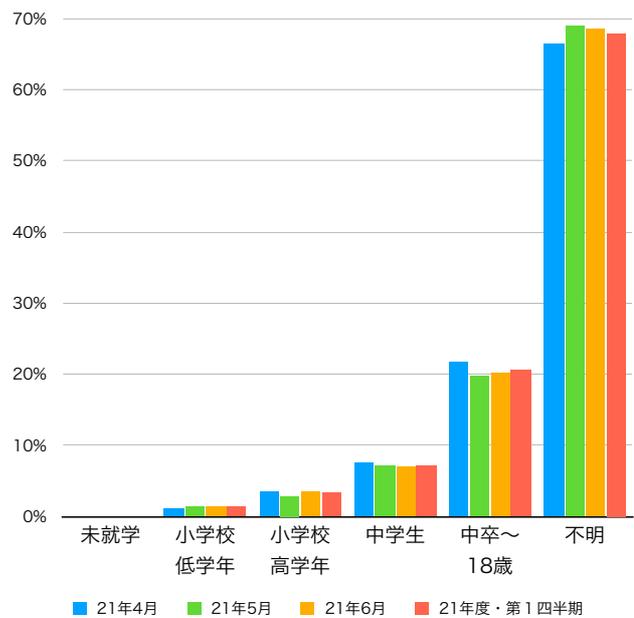
データベースにおける、会話成立・会話不成立・無言などを含めた「全体」について「年齢」を軸に、集計した。年齢割合は、全体として会話不成立や無言などが多い（約7割）ので「不明」が多い。そのため、不明の変動が大きくなっている。

前の月の比較、昨年と同じ月の比較、3ヶ月単位の前期（1月～3月）と2020年度の同期比においても、2021年の不明の割合が増加傾向である。

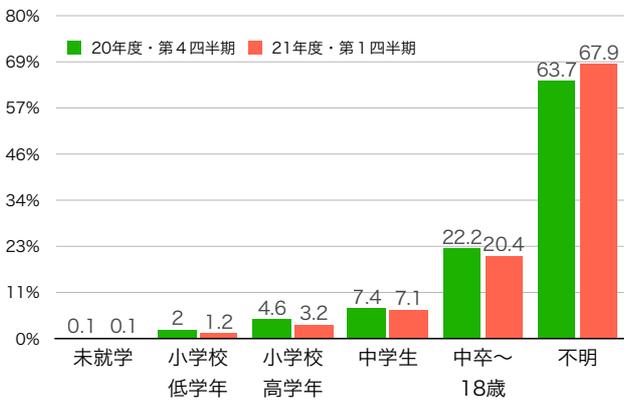
月別・年齢割合（全体）



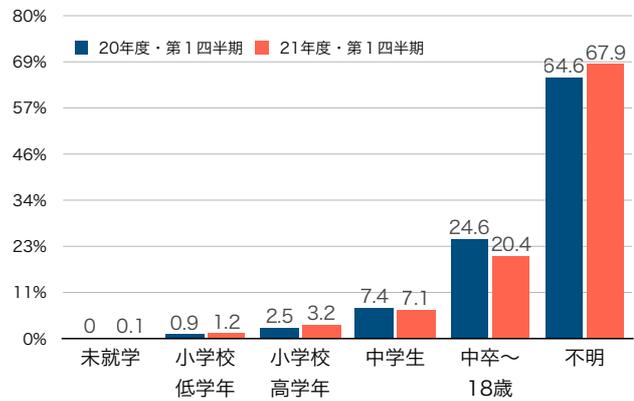
月別推移と合計（全体）



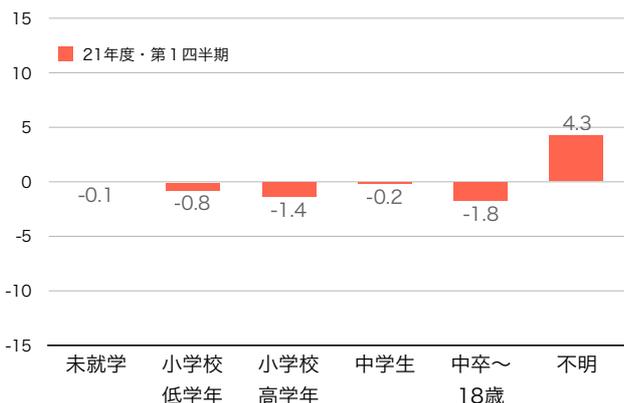
四半期別・前期との比較（全体・%）



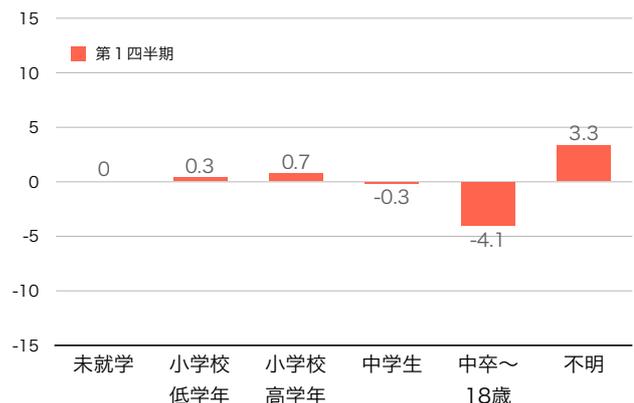
四半期別・2020年の同期との比較（全体・%）



前四半期からの増減（全体・%ポイント）

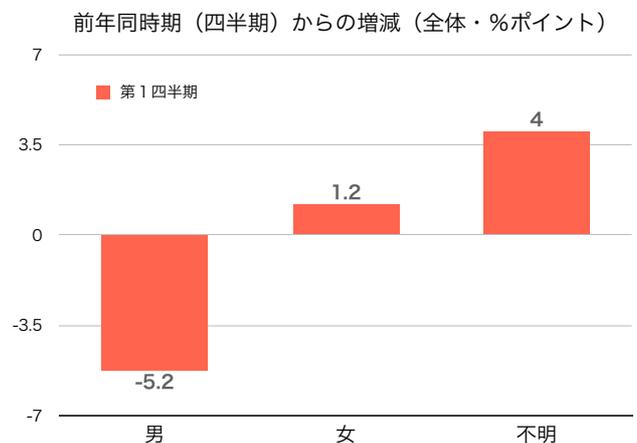
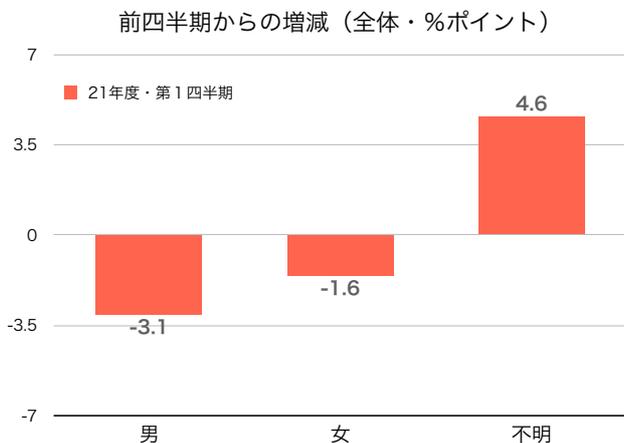
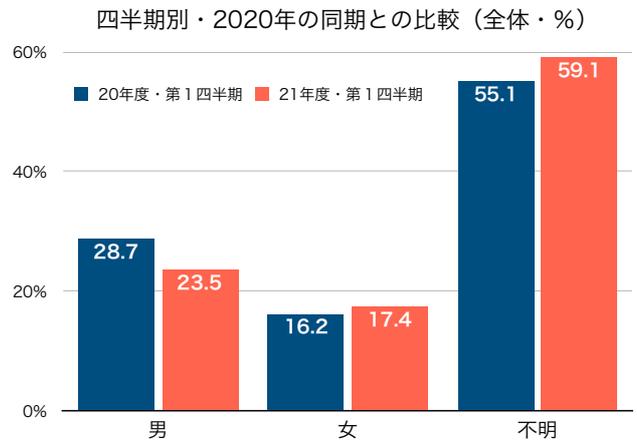
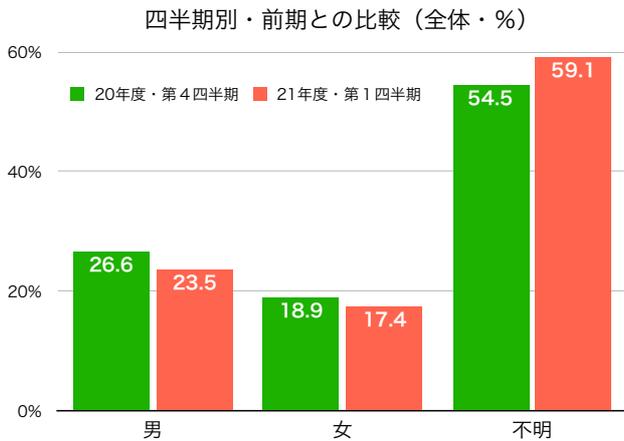
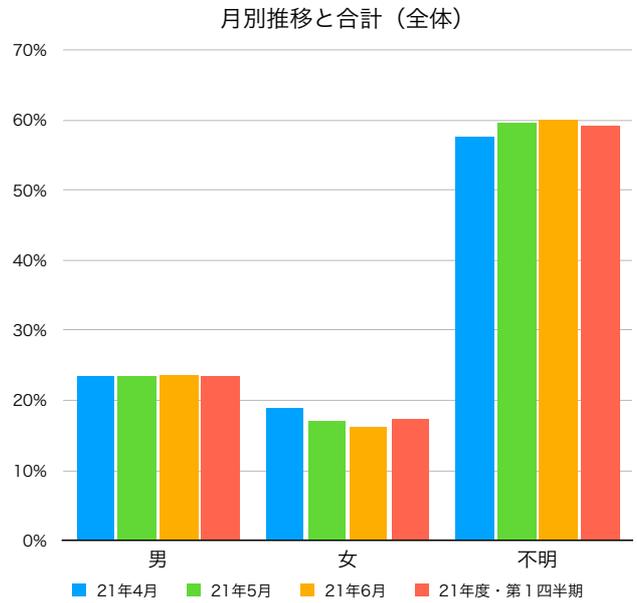
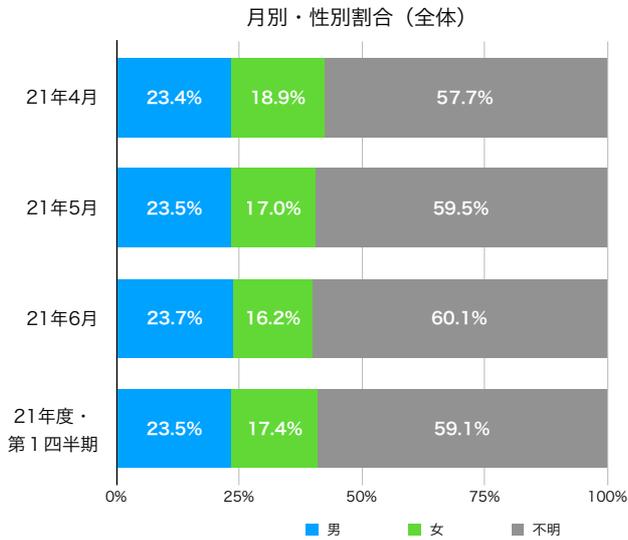


前年同時期（四半期）からの増減（全体・%ポイント）



# 《データベース・性別（全体）》

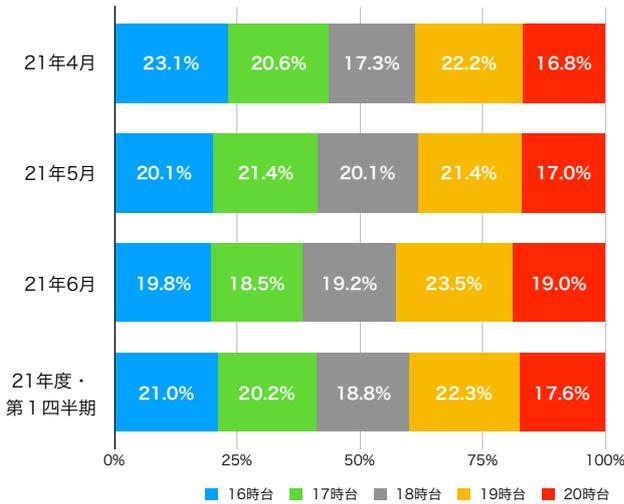
データベースにおける、会話成立・会話不成立・無言などを含めた全体について、「性別」を軸に、集計した。前項と同じく、「不明」の割合が多い。



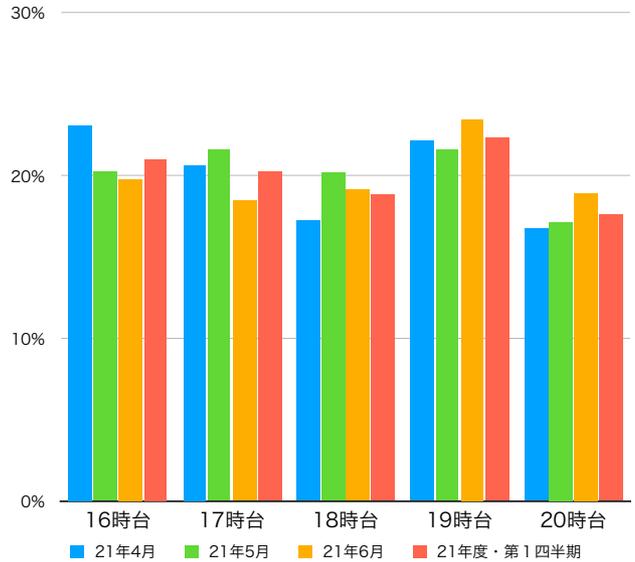
# 《データベース・時間帯（全体）》

データベースにおける、会話成立・会話不成立・無言などを含めた全体について、「時間帯」を軸に、集計した。やや16時台と19時台に受信が多い傾向にあり、20時台は少ない傾向だが、実施体制（回線数や人数）に関係しているため、目立った傾向はわからない。2020年度、前四半期との比較においては、20時台に減少している傾向が見られた。

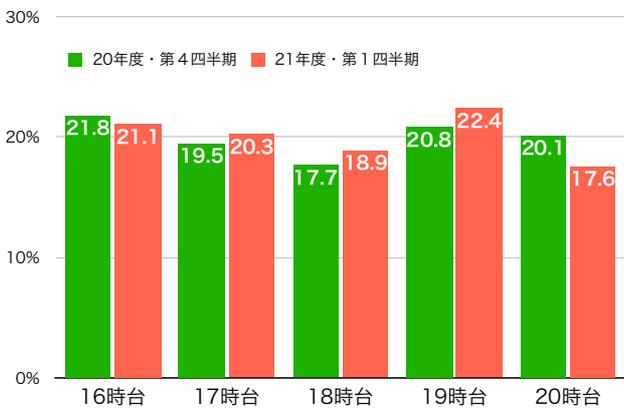
月別・時間帯割合（全体）



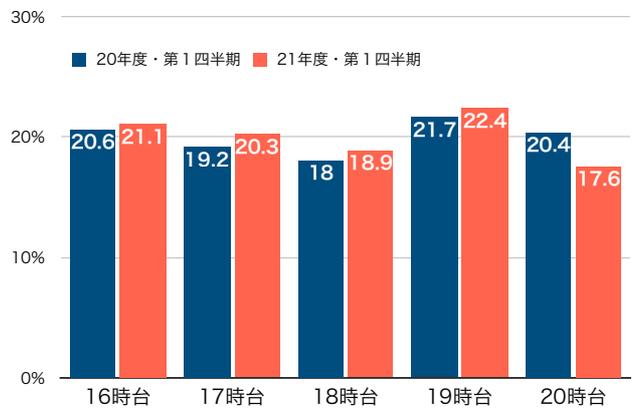
月別推移と合計（全体）



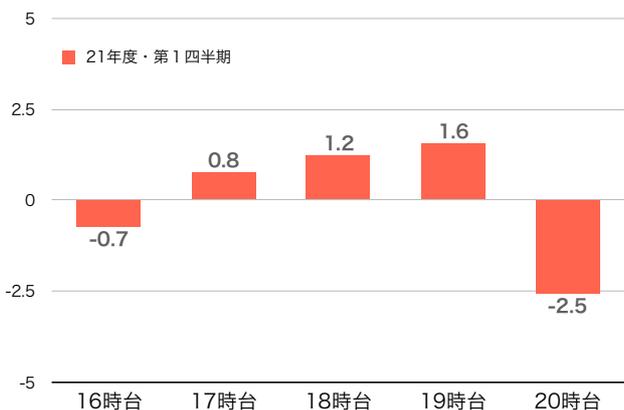
四半期別・前期との比較（全体・%）



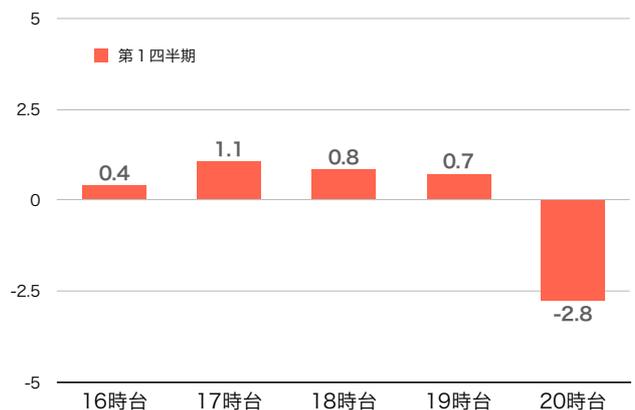
四半期別・2020年の同期との比較（全体・%）



前四半期からの増減（全体・%ポイント）



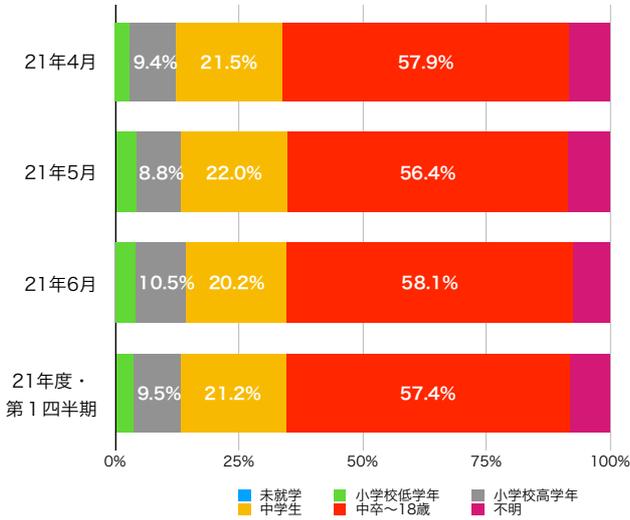
前年同時期（四半期）からの増減（全体・%ポイント）



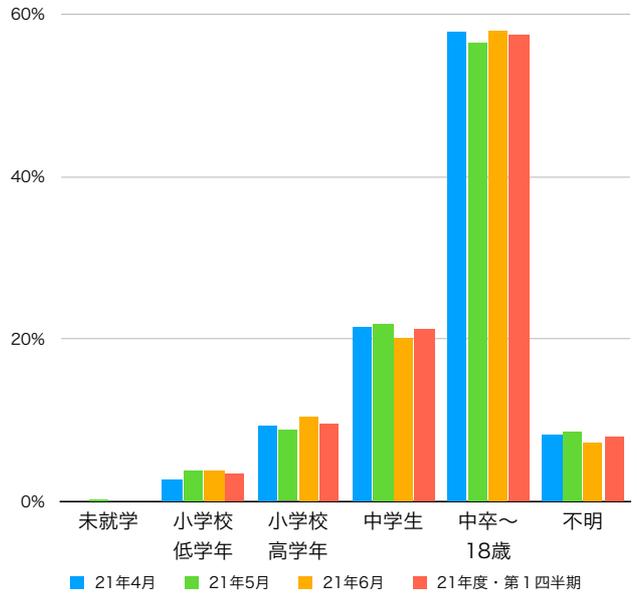
# 《データベース・年齢（会話成立）》

ここからはデータベースの「会話成立」に絞ったデータを紹介します。まず「年齢」別の集計から。年齢の割合は、この3ヶ月は通じて高校年齢割合が多い（約6割）。月別変化に大きな違いはないが、6月に小学校高学年と高校年齢の割合がやや高くなっている。また、2020年との比較においては、「中卒～18歳」が今年は減少し、小学校高学年などが増加している。

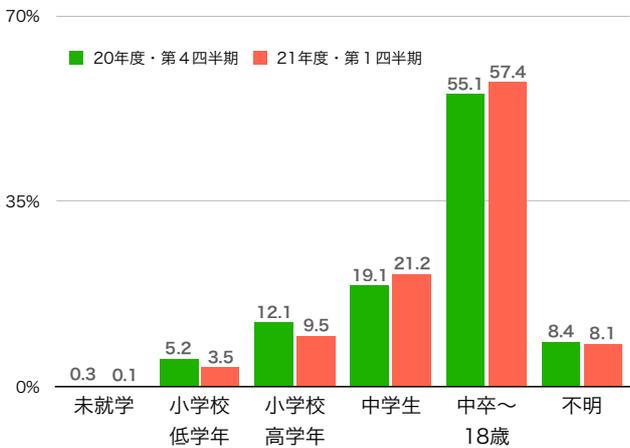
月別・年齢割合（会話成立）



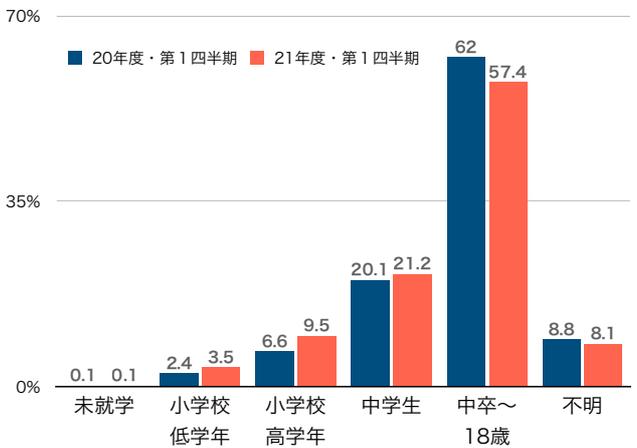
月別推移と合計（会話成立）



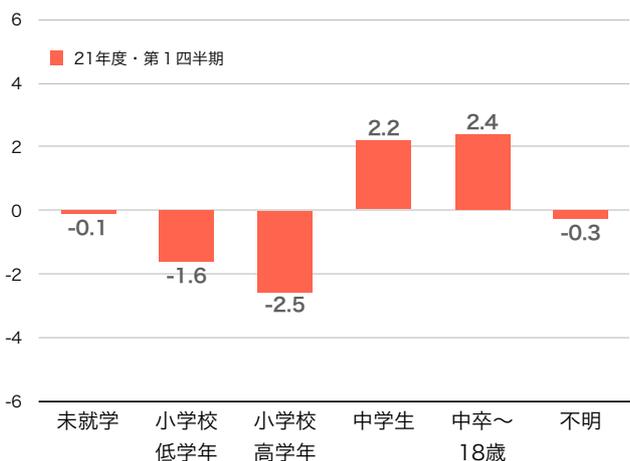
四半期別・前期との比較（会話成立・%）



四半期別・2020年の同期との比較（会話成立・%）



前四半期からの増減（会話成立・%ポイント）



前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）

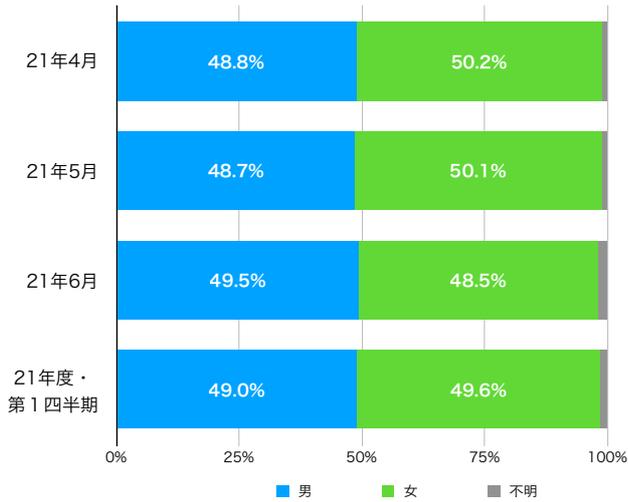


## 《データベース・性別（会話成立）》

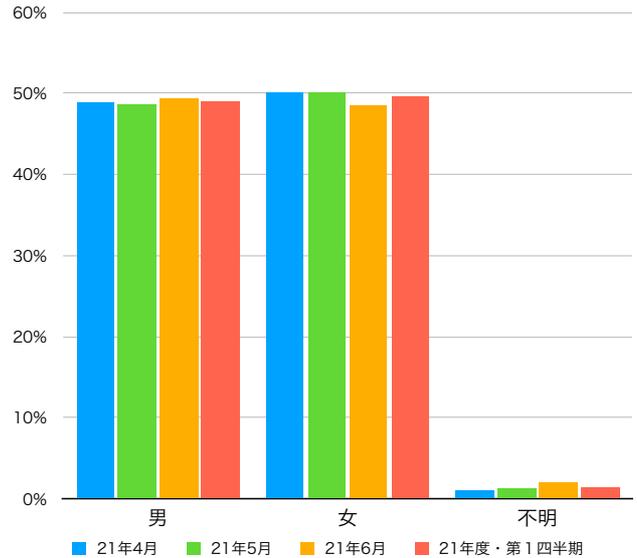
データベースの「会話成立」の中の「性別」を軸に集計した。男女ともに割合に大きな変化はなかった。

2020年との比較で見ると、男性が大幅に減り、女性が増加する傾向が強く出ている。この傾向の違いは、さらに過去の2020年と2019年との比較を見てみないとわからないが、今年が大きく変化したと考えるよりも、概ね、2020年の比率の変化が大きかった影響と考えられる。

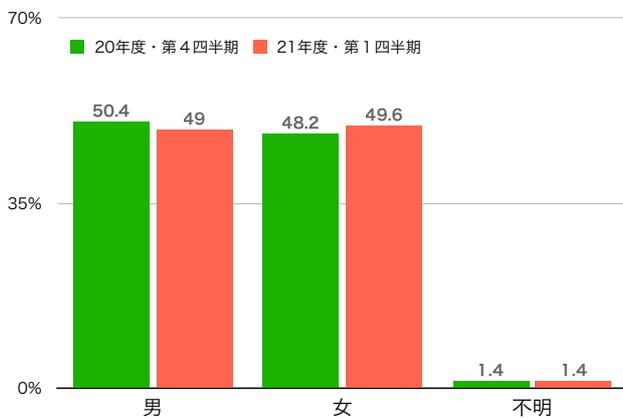
月別・性別割合（会話成立）



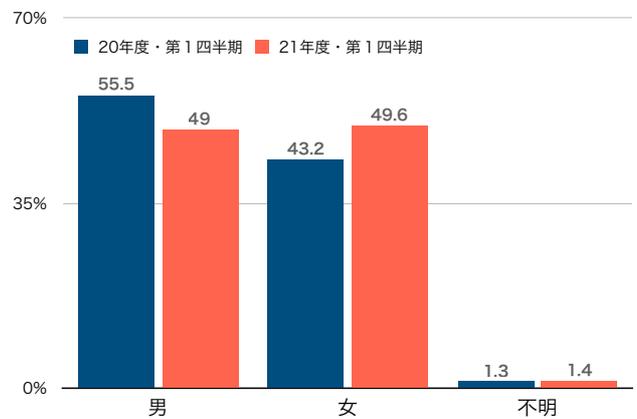
月別推移と合計（会話成立）



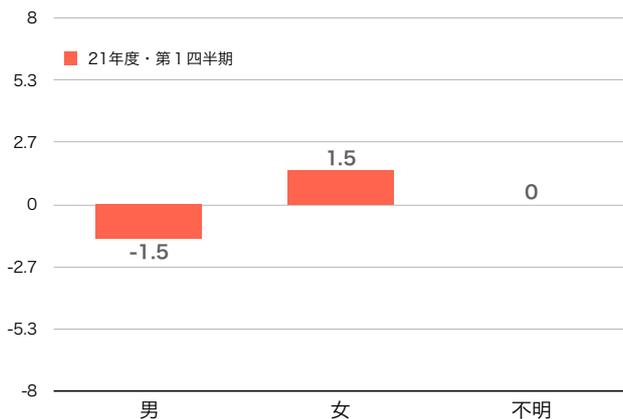
四半期別・前期との比較（会話成立・%）



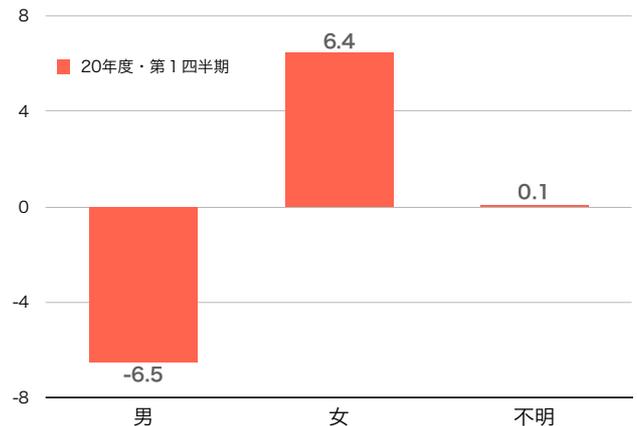
四半期別・2020年の同期との比較（会話成立・%）



前四半期からの増減（会話成立・%ポイント）



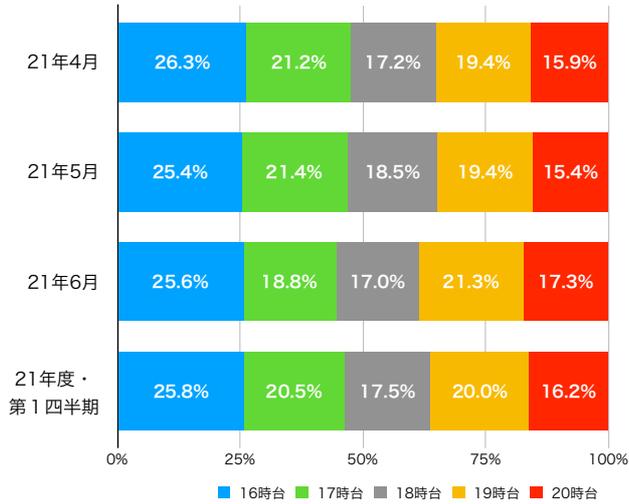
前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）



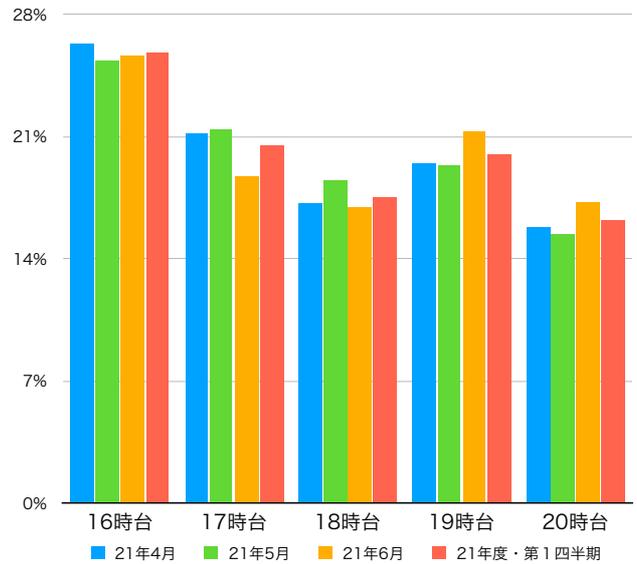
## 《データベース・時間帯（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「時間帯」を軸に集計した。時間帯の割合は、6月に、19時台・20時台の割合が高くなっていた。ただ、実施体制（回線数や人数）の影響も考えられるので留意が必要。

月別・時間帯割合（会話成立）



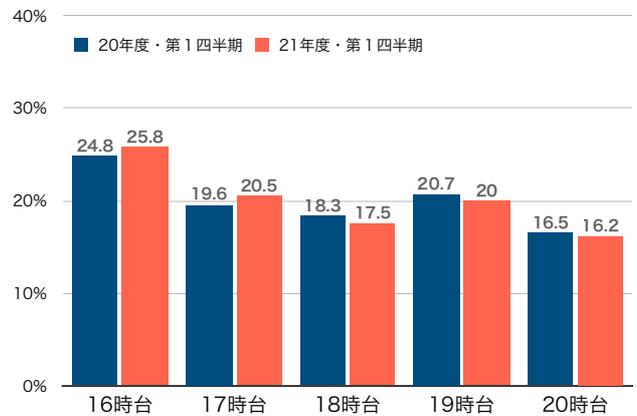
月別推移と合計（会話成立）



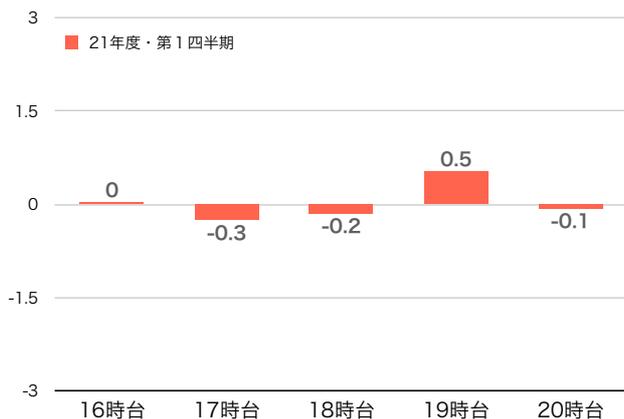
四半期別・前期との比較（会話成立・%）



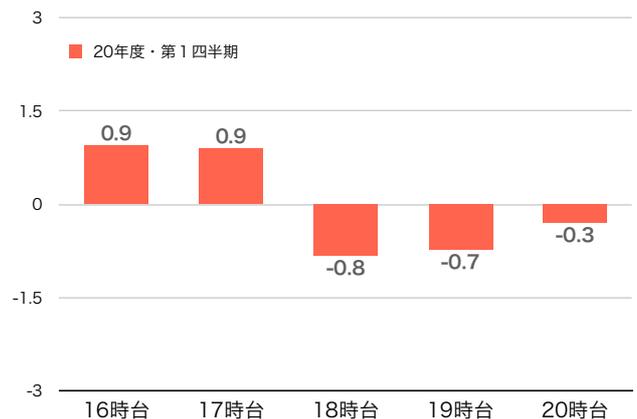
四半期別・2020年の同期との比較（会話成立・%）



前四半期からの増減（会話成立・%ポイント）



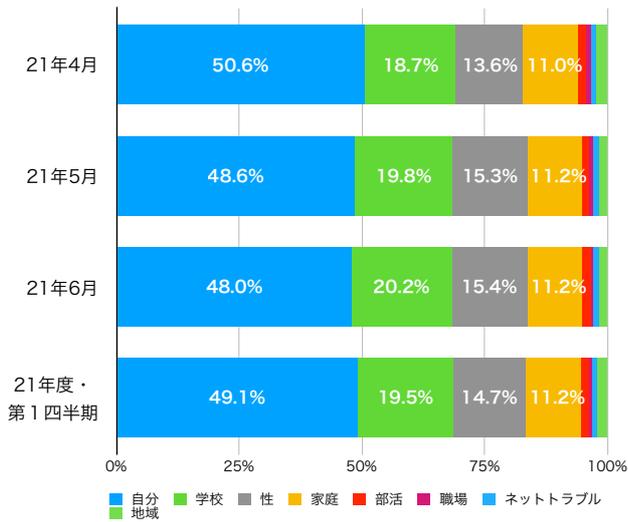
前年同期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）



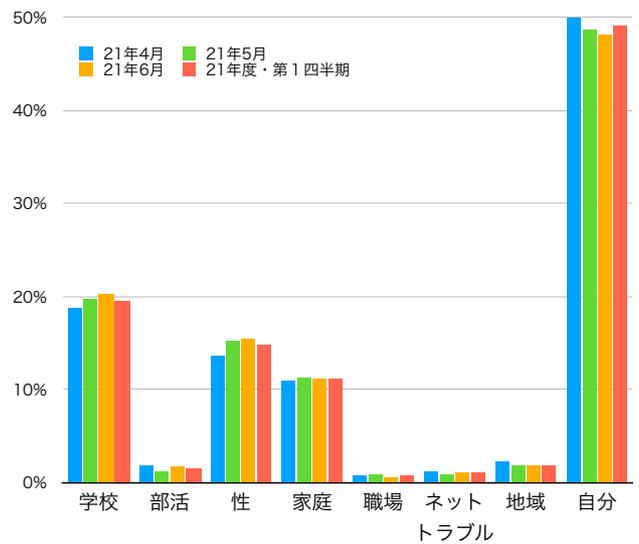
## 《データベース・主訴【大項目】（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「主訴【大項目】」を軸に集計した。2021年の4月～6月においては、「自分」がやや減少し、「学校」「性」がやや増加だった。また、2020年との「学校」においては、今年の方が大幅な増加が見られた。昨年の緊急事態宣言の時期による「学校」の減少が影響している。

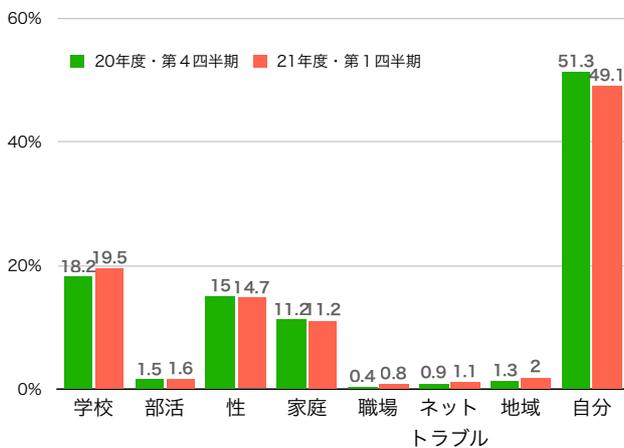
月別・年齢割合（会話成立）



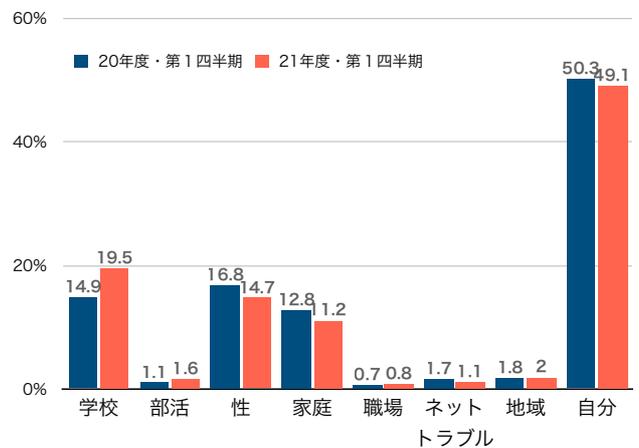
月別推移と合計（会話成立）



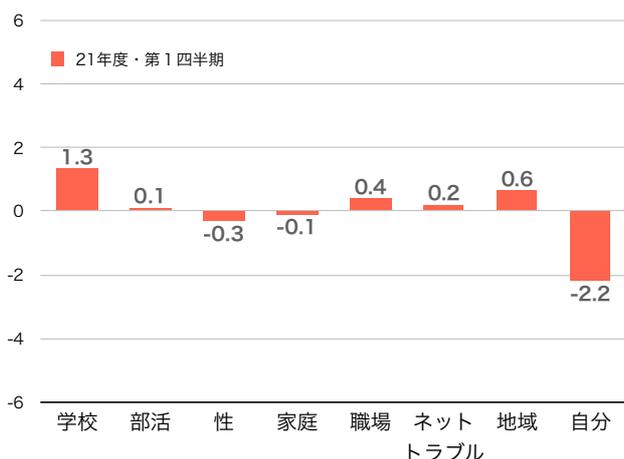
四半期別・前期との比較（会話成立・%）



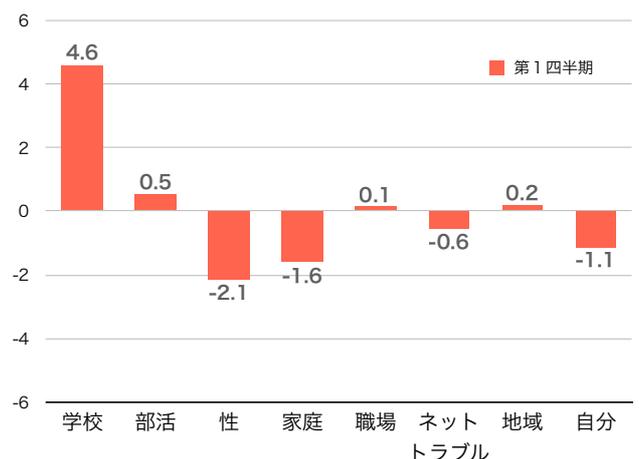
四半期別・2020年の同期との比較（会話成立・%）



前四半期からの増減（会話成立・%ポイント）



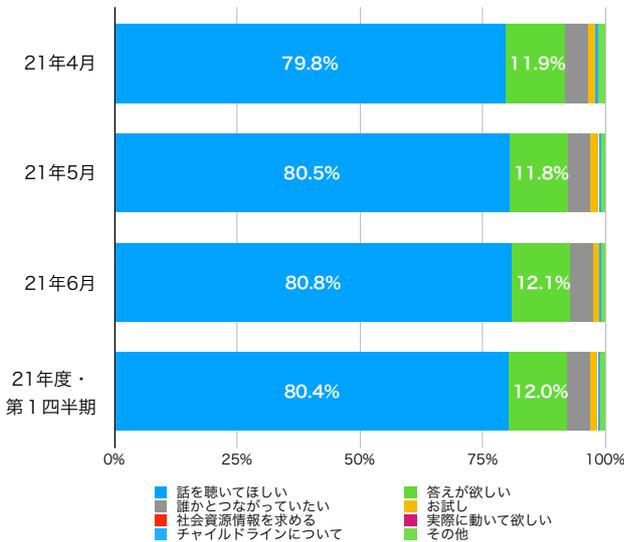
前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）



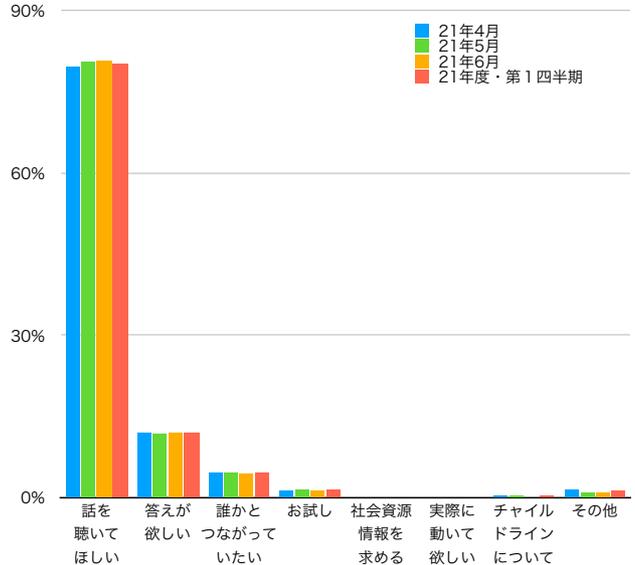
# 《データベース・動機（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「動機」を軸に集計した。いずれも大きな変化は見られないが、前の四半期の比較では「話を聞いてほしい」が増加、2020年との比較では「話を聞いてほしい」「誰かと繋がってほしい」がやや増加した。

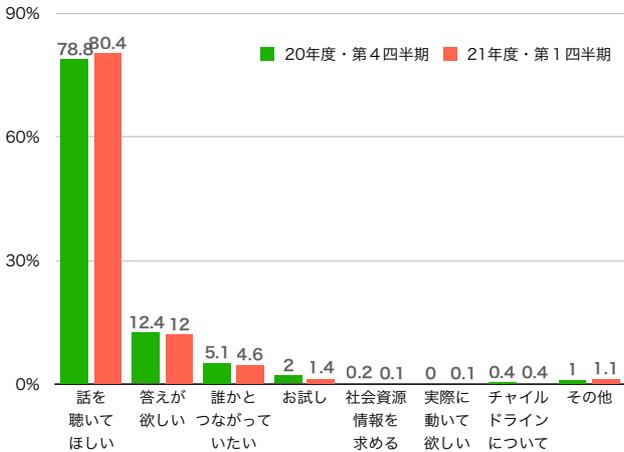
月別・年齢割合（会話成立）



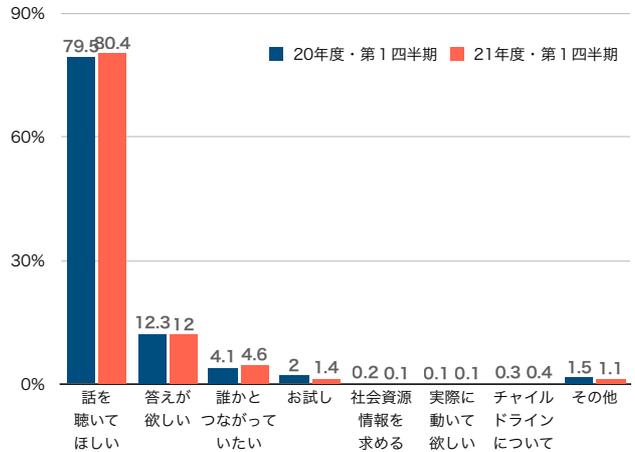
月別推移と合計（会話成立）



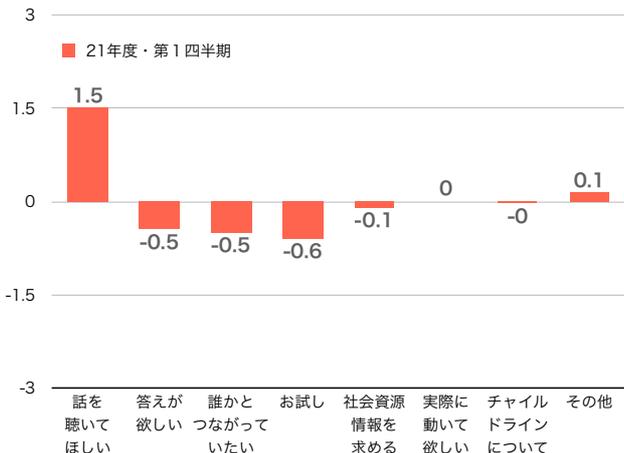
四半期別・前期との比較（会話成立・%）



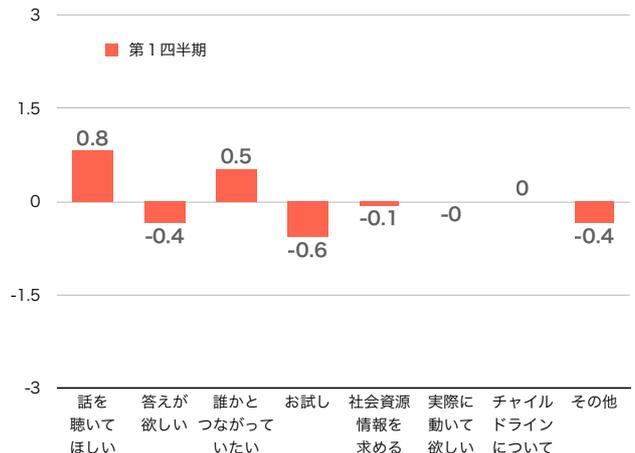
四半期別・2020年の同期との比較（会話成立・%）



前四半期からの増減（会話成立・%ポイント）



前年同期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）

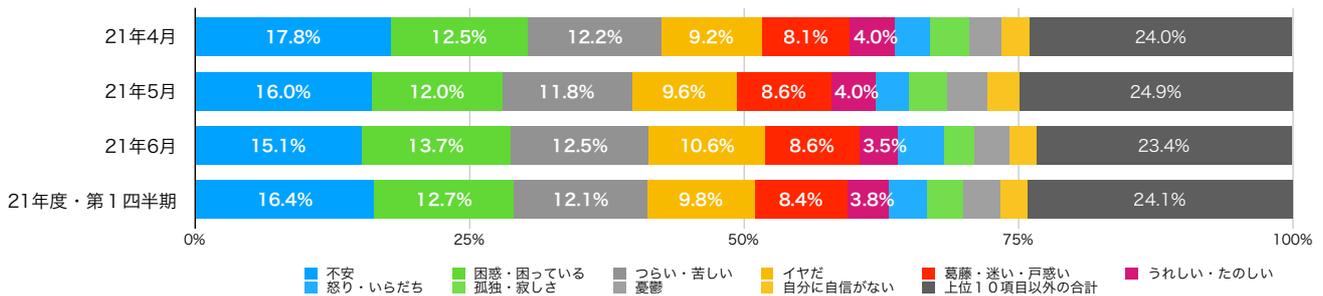


## 《データベース・気持ち（会話成立）》

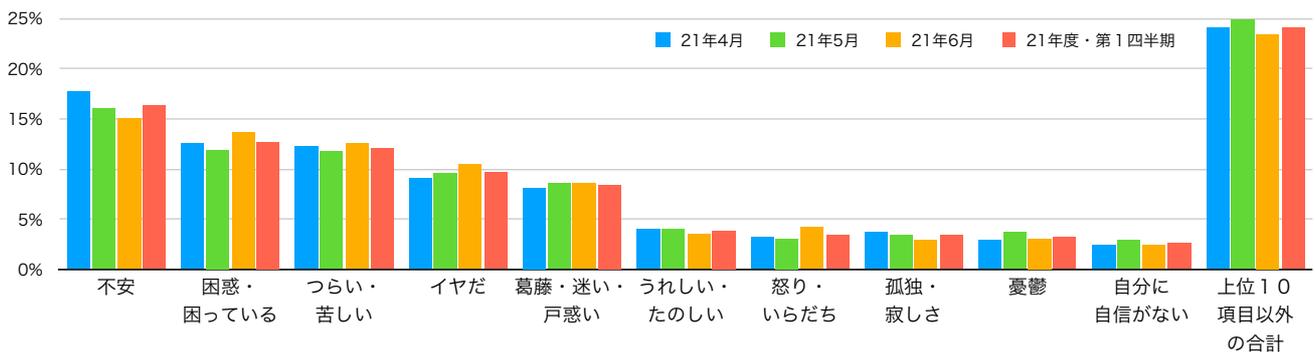
データベースの「会話成立」の中の「気持ち」を軸に集計した。ここでは項目が多いので、「割合の高い上位10項目」を基本にまとめた。4月～6月にかけてやや減少したのは「不安」で、逆にやや増加したのは「困惑・困っている」「イヤだ」「怒り・いらだち」だった。また5月に「上位10項目以外」がやや増加した。

また2020年との比較では、「不安」が減少し、「つらい・苦しい」「困惑・困っている」「葛藤・迷い・戸惑い」が増加していた。不安の減少は、昨年の1学期がコロナかの始まりの期間であったことが影響している可能性がある。一方で、増加した項目は、昨年の学校休校から今年は学校が通常の運用となっていることがやや影響している可能性もあるが、さらなる分析が必要である。

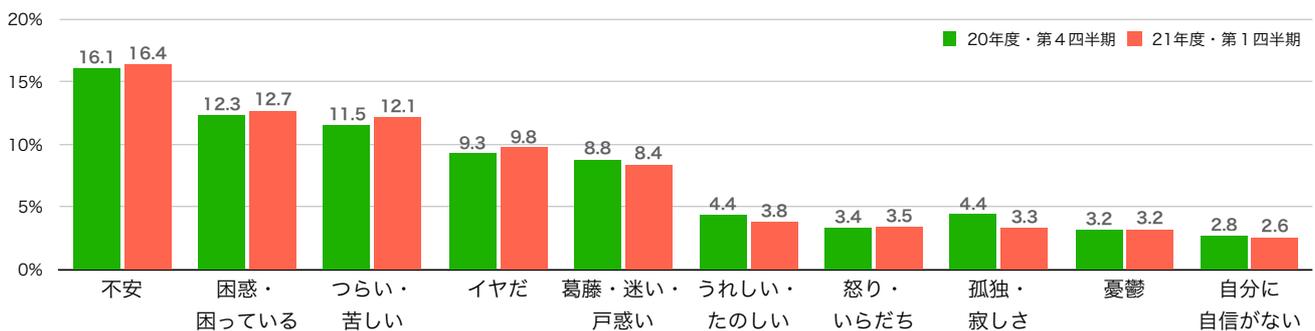
月別・年齢割合（会話成立／割合上位10項目）



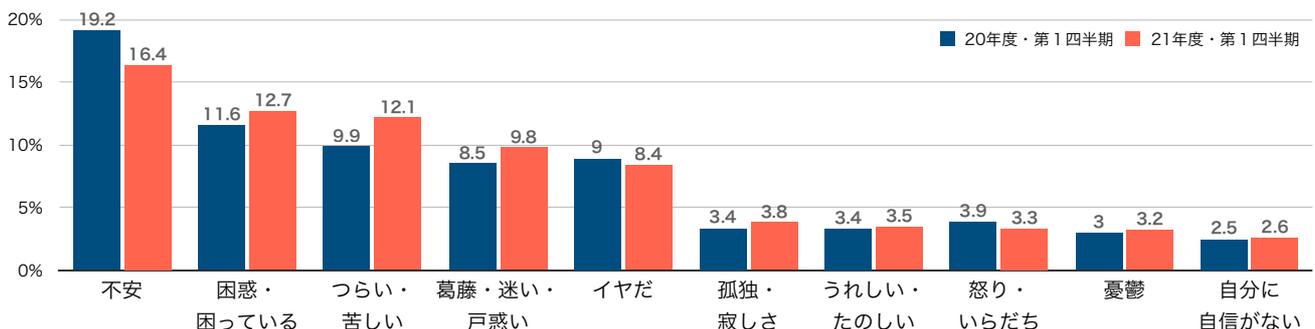
月別推移と合計（会話成立／割合上位10項目）



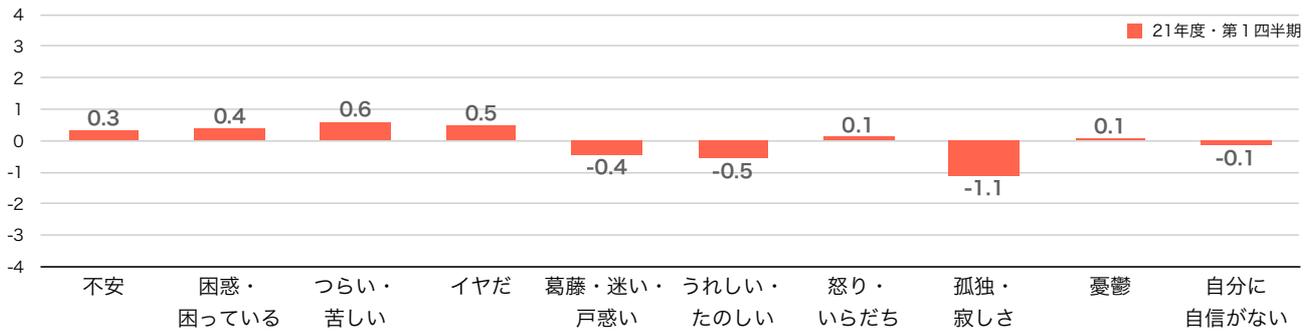
四半期別・前期との比較（会話成立・％／割合上位10項目）



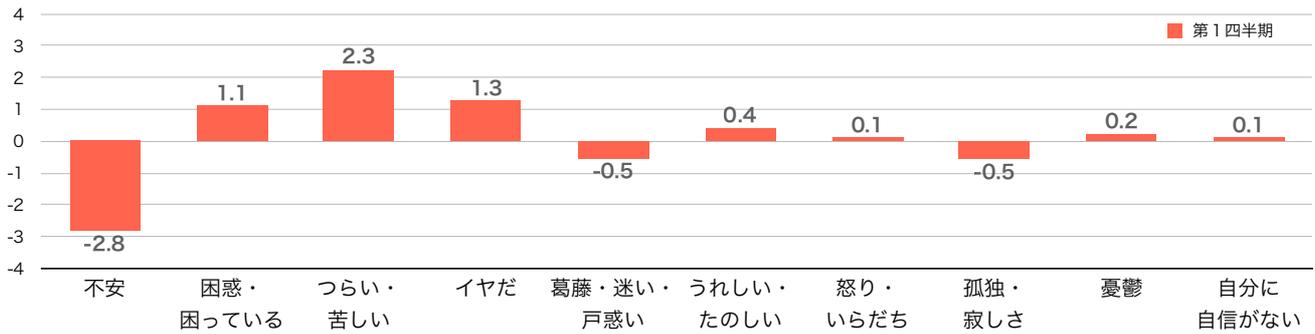
四半期別・2020年の同期との比較（会話成立・％／割合上位10項目）



前四半期からの増減（会話成立・%ポイント／ポイント幅の大きい10項目）

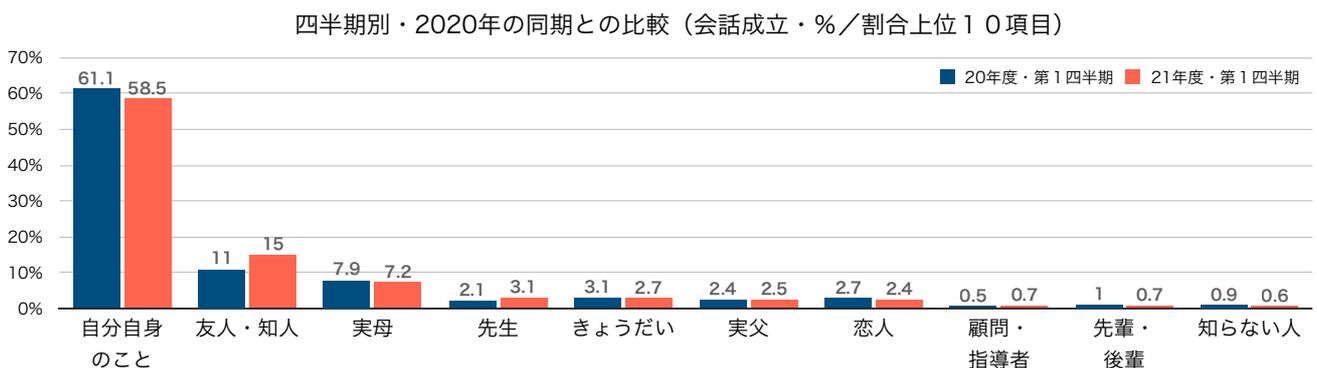
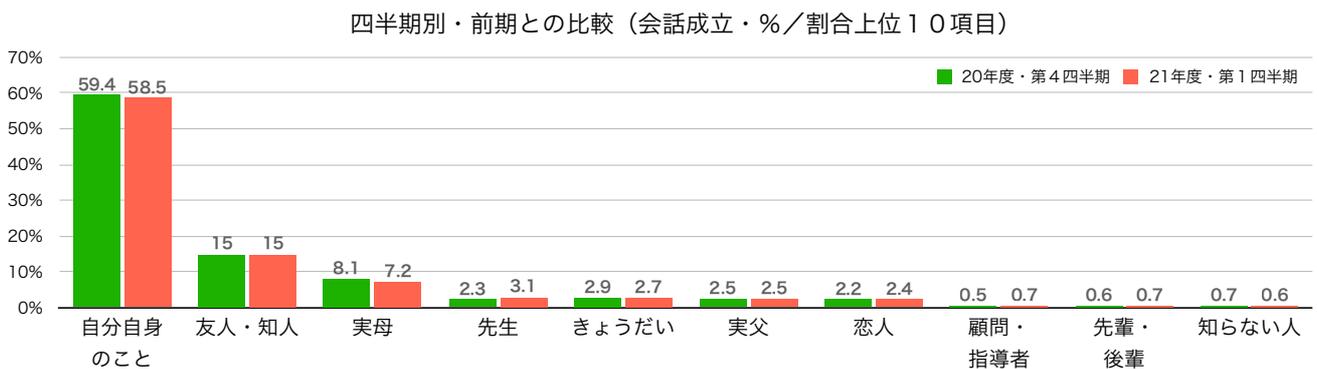
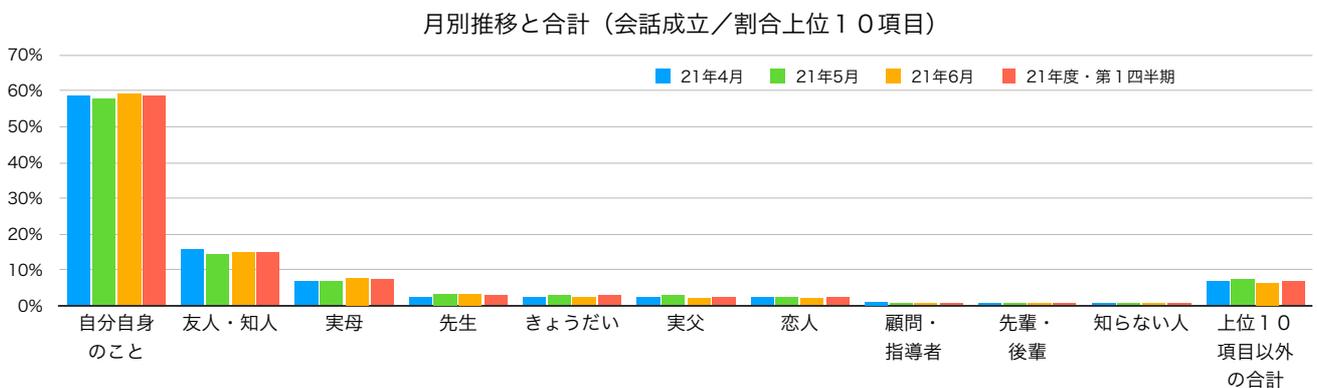
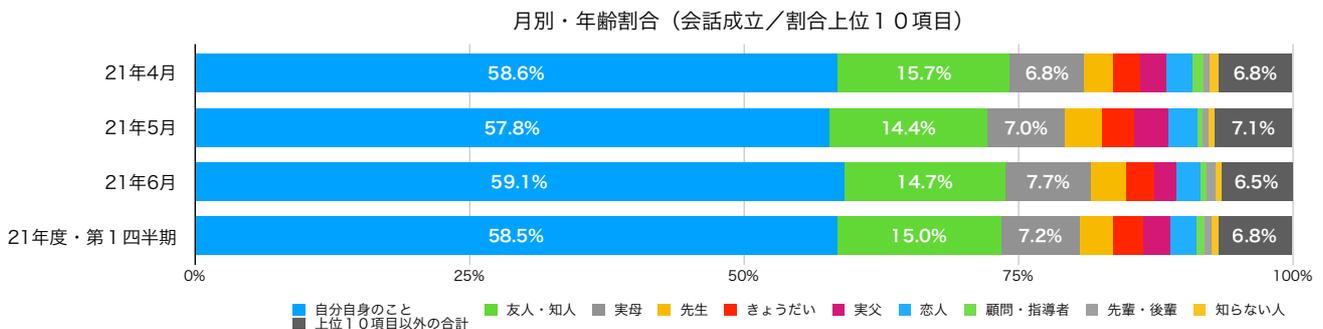


前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント／ポイント幅の大きい10項目）

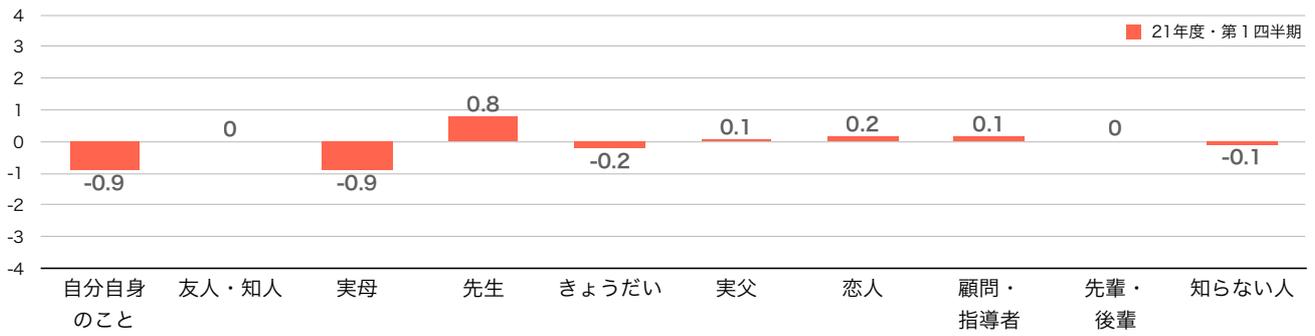


## 《データベース・関係性（会話成立）》

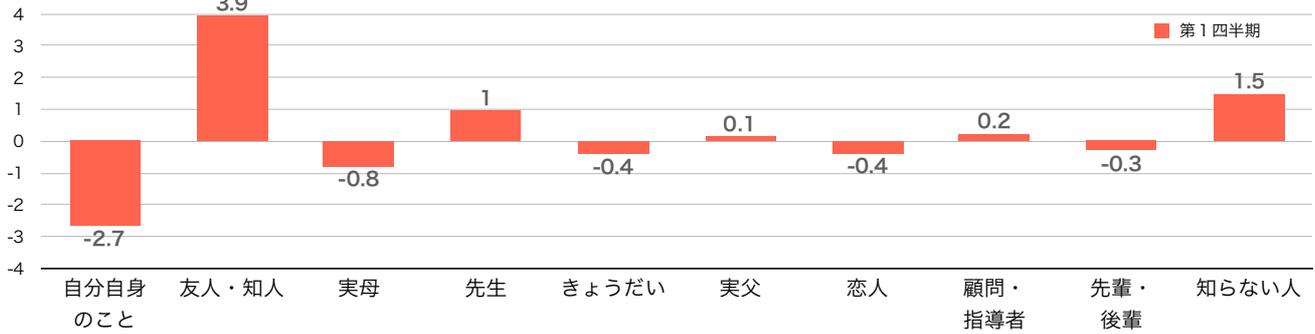
データベースの「会話成立」の中の「関係性」を軸に集計した。おおむね大きな変化は見られないが、5月に前後の月と比べるとやや違いが見られる。また2020年との比較を見ると、「自分自身のこと」が減少し「友人・知人」が増加している傾向にあった。他の項目と同じく、2020年度のコロナ禍始まり期における休校などの影響による違いが考えられる。



前四半期からの増減（会話成立・%ポイント/ポイント幅の大きい10項目）



前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント/ポイント幅の大きい10項目）



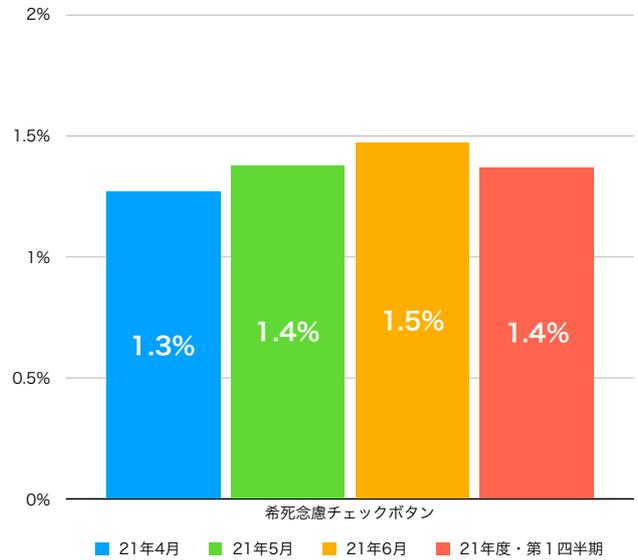
## 《データベース・背景に希死念慮がある（会話成立）》

データベースの「会話成立」のうち、内容の背景に「希死念慮があるケース」に絞って集計した。集計数が少ないため、大きな変化は読み取れないが、毎月一定数寄せられていることがわかる。

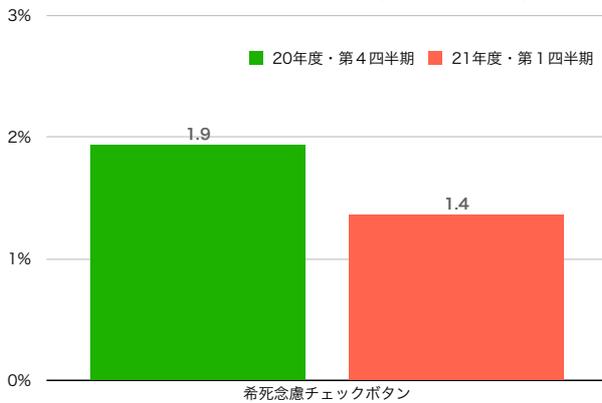
背景に希死念慮がある件数

年月	件数
21年4月	51件
21年5月	52件
21年6月	53件
合計	156件

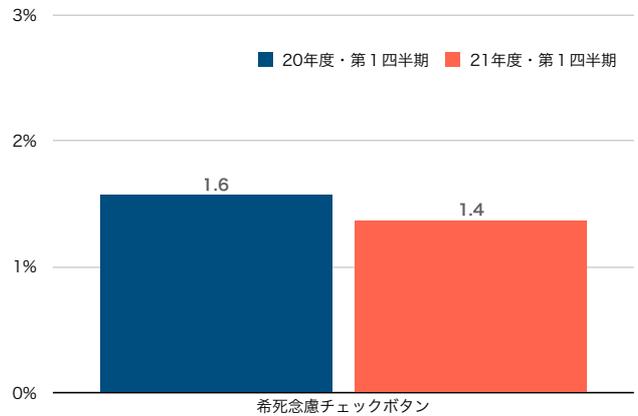
月別推移と合計（会話成立）



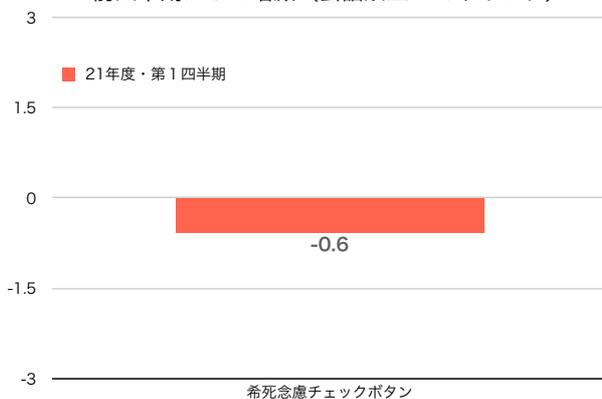
四半期別・前期との比較（会話成立・%）



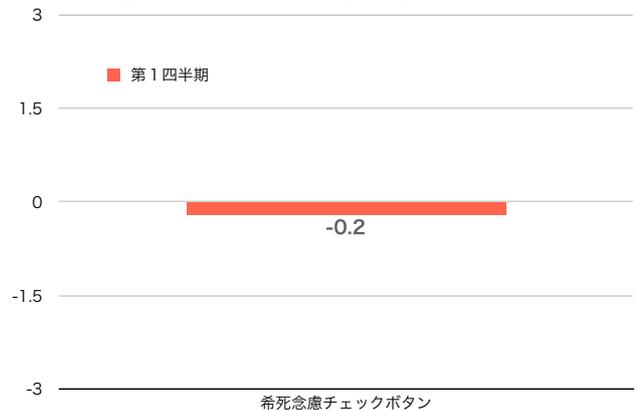
四半期別・2020年の同期との比較（会話成立・%）



前四半期からの増減（会話成立・%ポイント）

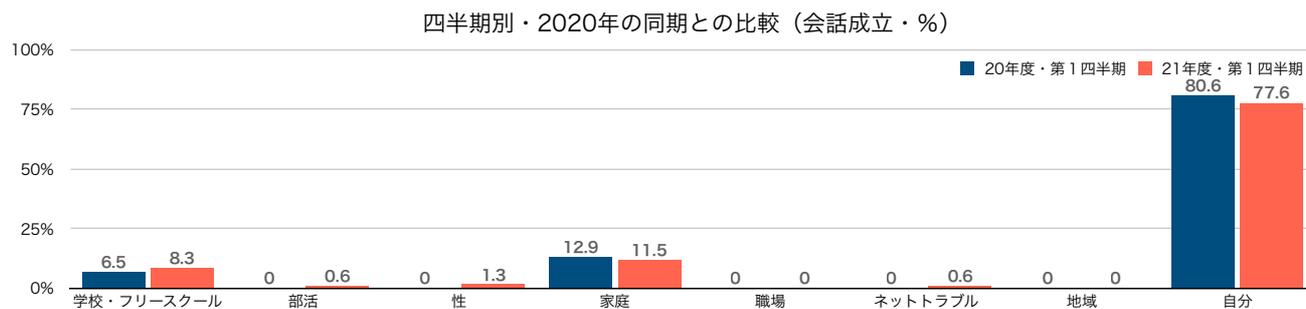
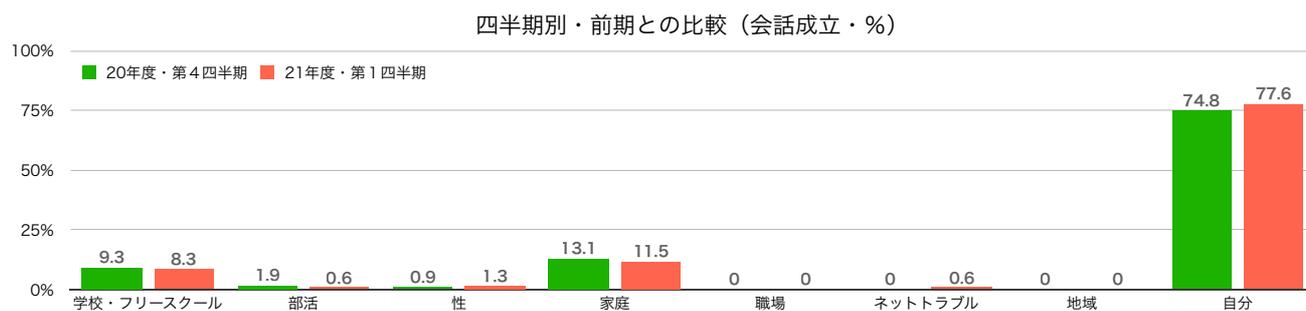
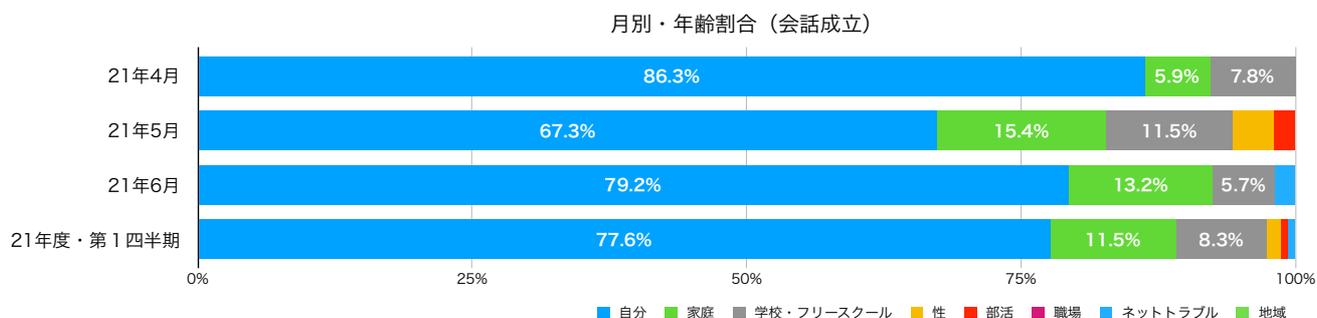


前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）

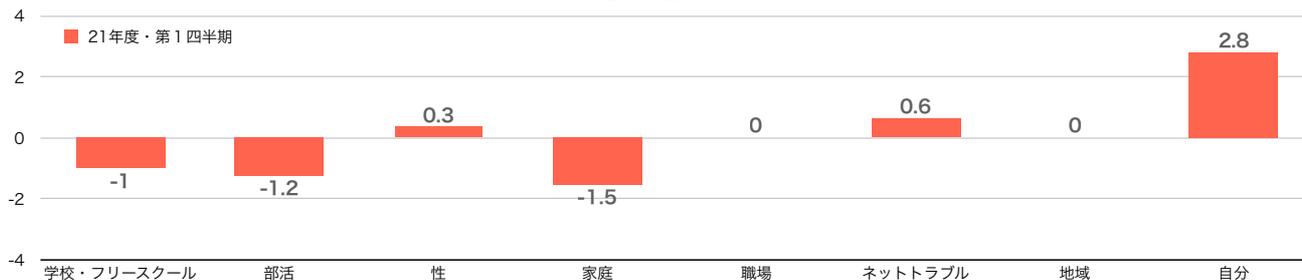


## 《データベース・主訴／希死念慮項目の内訳（会話成立）》

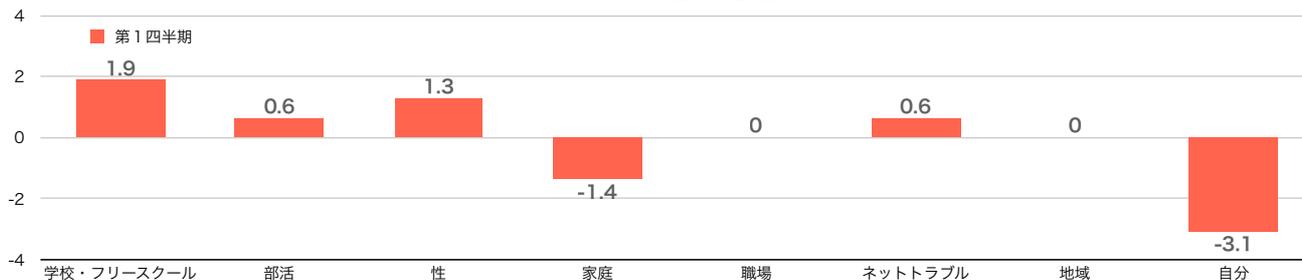
データベースの「会話成立」のうち、「主訴／希死念慮項目（自分／心に関すること／希死念慮）」に絞って集計した。各グラフとも、数値の幅が狭いため変化があるように見えるが、分母が100件／月を切るため、大きな変化があるとは言いにくい。その上で、5月においては、「自分」が減少し「家庭」「学校」の割合が増加する変化があった。



前四半期からの増減（会話成立・%ポイント）



前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）



**【この資料に関する問い合わせ】**

作成：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター  
 〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5F  
 メール：info@childline.or.jp 電話：03-5946-8500  
 ウェブサイト：https://childline.or.jp/